



真っ白になった河川敷で野鳥を探す参加者

身近でも知らないことがいっぱい 間近で野鳥を見る「自然観察会」

野鳥を見て自然を学ぶ「自然観察会」(五十崎自治センター他主催)が1月13日、五十崎自治センター周辺で行われました。参加者は双眼鏡などを使ってホオアカなど27種類を間近で観察。観光マイスター・瀧野隆志さんが、鳥の生態や特徴などを話しました。瀧野さんは「雪が積もると鳥がお腹をすかせて人里に下りてくる。寒いけれど、観察には最高」と子どもたちに教えていました。



どの俳句が入選するか、ドキドキの採点席

恒例の「内子町新春俳句大会」 新年の心情や情景を17文字に――

春の喜びを詠む「内子町新春俳句大会」(内子町文化協会主催、生口象亭会長)が1月21日、共生館で開かれました。参加した60人から118の投句があり、18句が入賞。内子町長賞を受賞したのは、高藤士千子さん=内子15=の「毛筆の年賀に気あり声のあり」でした。高藤さんは「見事な毛筆の年賀状をいただいて印象に残ったので、それを詠んだ」と笑顔でした。



1_2日間で5講義の講師を務めた岡崎昌之教授
2_最優秀賞を受賞した新居浜南高等学校の皆さん

行政職員などがまちづくりを学ぶ 「自治体学会・自治立志塾集中講義in内子」

自治体学会が蓄積してきた英知を次世代に引き継ぐことを目的に「自治体学会・自治立志塾集中講義in内子」(えひめ地域づくり研究会議主催)が1月20・21の両日、内子自治センターで開かれました。法政大学名誉教授の岡崎昌之さんが「人口減少社会の実像と未来」などをテーマにした集中講義を行いました。

岡崎さんは「まちづくり」が行われ始めた1970年頃から現在にかけて、北海道の池田町や沖縄県読谷村、そして内子町などのまちづくりの変遷や取り組みを紹介。「地域の宝探しではなく、まずはあるもの探しから始めること。そんなすぐには宝にならない。磨くことが大事であり、その取り組みがまちづくりそのもの」と諭しました。

29年度に創設された「えひめ地域づくりアワード・ユース」の表彰式と活動発表会が合わせて行われました。最優秀賞を受賞した新居浜南高等学校「ユネスコ部」が、「あかがねプロジェクト～ふるさと新居浜を未来へつなぐ～」を発表。地域の歴史を伝える高校生の思いに大きな拍手が送られていました。

仲間と遊ぶ、かけがえのない冬 小田深山で「雪山ネイチャーキャンプ」

冬の小田深山で子どもたちの感性を豊かに育む「雪山ネイチャーキャンプ2017」(ソルファ・オダスキーゲレンデ主催)が、12月26～28日の2泊3日で開催され、町内外から35人が参加しました。参加者は雪山自然散策やスキー・スノーボードなどの雪遊びを体験。夜には巨大かまぐらをキャンドルでライトアップし、雪山ならではの幻想的な空間を堪能しました。



みんなで作ったかまぐらをキャンドルでライトアップ

大規模災害に備えて新たな組織を設立 地域を守る「内子町防災士連絡会」

町内の防災士133人などで組織する「内子町防災士連絡会」の設立総会が12月26日、町民会館で開かれました。同連絡会では今後、研修や情報交換などで連携を強化し防災力の向上を目指します。記念講演では、(財)消防防災科学センターの毛利泰明さんが登壇。「自分の身は自分で守ることが大切。大災害時に助ける側になるよう、普段から防災意識を高めてほしい」と訴えかけました。



防災士の役割などについて話す毛利さん

春の七草に誘われて―― 地域の歴史と食文化に触れる散歩道

「七草を探して食べよう」(五十崎児童館きらり主催)が1月6日、豊秋河原などで行われました。地域の伝統や歴史を知ってほしいと毎年開催し、今年は11人の小学生が参加。散策途中の豊秋河原や天神産紙工場などで地域の歴史を学びながら、七草探しを楽しみました。児童館に戻った後は、採れたての七草などの天ぷらや食生活改善推進員の皆さんが作った七草がゆを味わいました。



地域を散策しながら七草を集める子どもたち

新年の健康と幸福を願い 町内各地域に伝わる「どんど焼き」

新年の恒例行事「どんど焼き」が内子町内の各地域で行われ、1年の無病息災を願いました。

上村区(宮田正区長)主催のどんど焼きは1月7日、五十崎風博物館前の河川敷で行われました。上村区では年男・年女がどんど焼きに火入れをする他、ぜんざいや甘酒を振るまって懇親を深めます。宮田区長は「天気にも恵まれ、にぎやかな1年の始まりになった」と喜びました。



持ち寄られた正月飾りなどを勢いよく燃やす